

# 地域おこし協力隊通信

## 第38回



リポーター…  
小林正英 隊員



水郷潮来あやめまつり「嫁入り舟」



実際にSUPを体験しました

皆さんこんにちは！地域おこし協力隊の小林です。今回は、今僕が密かに思い描いていることについてお話しします。今回の記事を見て、ご興味を持たれた方は是非、ご連絡ください！

さて、これまでの協力隊通信や協力隊しんぶん、SNSで何度か申し上げたのですが、今、前川でのSUP事業を進めています（SUPとはスタンドアップパドルボードの略で、サーフボードの上に立ち、一本のパドルで左右を交互に漕ぎながら進むウォータースポーツです）。この内容を見た市民の方々から「なんの前川なの？」「もつといところがあるんじゃないの？」などなどよく言われます。

確かにそうですね！潮来には、商工会青年部がカヌー事業で使用した県民の森の大膳池もありますし、ただSUPをやるだけなら、わざわざ前川でやる必要はないかと思えます。ただ単純にSUPをやるだけならね。

今、僕が密かに思い描いていることは、前川沿いを使ってヴェネチア祭を開催することです。1日だけ潮来をヴェネチアにします！SUPはそのこのアフティブティの二つになればなあと考えています。なので僕は前川でのSUPにこだわっているんです。左上の写真を見て下さい。どうですか？なんだか既にヴェネチアっぽくないですか？

あやめの時期でない時に、あやめ園側をアートや音楽などで彩り、前川ではSUPや舟などのアクティビティ、前川を挟んであやめ園の反対側には、キッチンカーやテラス席などを用意。これでもうヴェネチアです。まあヴェネチア行ったことないんですけどね笑

もちろん、SUPの通年事業も考えています。しかし、まずはイベントとしてやってみようかなと、そしてイベントもいきなりヴェネチア祭のように大規模にやるのではなく、SUPのみの小規模イベントから初めてみるのもありかなと…まあこれとあり、まだまだ全然決まっています。あくまでアイデアとして密かに考えているだけですが、「潮来をヴェネチアにする」って夢がありますよね！

これを見て面白そう！と思った方は、ぜひご連絡ください。一緒に盛り上げていきましょう！それでは。

(地域おこし協力隊 小林正英)  
tako.chikokoshi2018@gmail.com

## まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

### 潮来市の誇れる自然

第73回

#### 小学生たちが北浦で水質・生物調査を体験！

茨城大学水圏環境フィールドステーション（潮来市大生）では、全国の大学生が湖の環境や生態系について体験しながら学ぶさまざまな実習が行われています。このような実習で環境問題について学んだ学生が市内の子ども向け環境学習にも参加しています。6月1日に延方小学校の4年生61人が参加した総合的な学習「調べよう 私たちの霞ヶ浦・北浦」には、小学校の先生や北浦湖岸自然を守る会の方々のお手伝いで、ステーションの大学院生も参加しました。

北浦湖岸に集合した小学生は、湖の水がどのくらい透明なのかを調べたあと、ひとり一人がパックテスト（試薬入りの透明チューブに水を入れて色の変化を見る）で、水質調査を体験しました。湖の水は毎日使う水道水の主な水源ですから、この実体験は湖を大切にしたい思いにつながります。

次に、自然を守る会の方々や私たちが採集した外来種のギンブナ、ヌマチチブ、ウキゴリ、ミナミメダカ、外来種のアメリカナマズ、タイリクバラタナゴ、コイ、ウシガエル（オタマジャクシ）、ミシシッピアカミミガメなどをじっくり観察しました。外来種

が持ち込まれた理由やその生態系への影響について説明すると、「どうしたらよくなるかな」「何ができるかな」と話し合いがはじまりました。また、コイの咽頭歯（ノドにある歯）は10円玉を折り曲げてしまうほど強力ということを教えると、「えー！すごい！」という反応でした。自然が豊かな地域で暮らしていて、予習してくれていたことあって、「この魚知ってる！」「家で飼ってる！」との声もありました。

最後には「霞ヶ浦で一番大きい魚は？」や「ほかにどんな魚がいるの？」などたくさん質問が来ました。子どもたちが地元の水環境や生態系の大切さを体験しながら学んでくれて、私たちも地域で研究する意義を再認識できる一日となりました。

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション所属の大学院生  
浜野 隼・近藤 陸人・  
龍頭 一生・小川 侑真



タイリクバラタナゴの雄



アメリカナマズを観察中